

2025年3月28日
株式会社三菱UFJ銀行

三菱製鋼株式会社と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、三菱製鋼株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。三菱製鋼株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

【本契約の概要】

契約締結日 2025年3月28日
融資金額 30億円
資金使途 事業資金
貸出人 三菱UFJ銀行

《本件の概要》

三菱製鋼株式会社は、いかなる経営環境の変化にも対応できる企業体質を確立することを重要課題と認識し、競争力ある事業の育成を通じて、持続的かつグローバルに発展することを経営の基本方針としております。この方針の下、「経営理念」「三菱製鋼グループ企業行動指針」「三菱製鋼グループ行動規範」に基づき、自らの社会的使命を果たすことでより信頼される企業を目指し、お客様・お取引先様・株主・従業員・地域社会など各ステークホルダーとの対話を通じて、持続可能な社会の実現を目指しております。

本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、三菱製鋼株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況	項番
<社会> エネルギー <社会経済> インフラ <環境> 気候の安定性	・低炭素負荷製品・循環型製品の提供による社会全体の GHG 排出量削減への貢献 〓 洋上風力発電設備向け部品用鋼材サプライヤーとして TPG 認証の取得 〓 北海道室蘭市における洋上風力関連事業の誘致 〓 風車建設工事に使用される機器や、自己昇降式作業台船 (SEP 船) の関連機器を開発・販売	1
<社会> 移動手段 <環境> 気候の安定性	・特殊鋼鋼材の自動車部品の提供による自動車の乗り心地、安全性、燃費改善への貢献 〓 ばね事業売上高：706 億円 (2023 年度、連結) 〓 ばね事業営業利益：10 億円 (2023 年度、連結)	2
<社会> 教育	・人材の育成と活用 〓 1 人当たり教育投資額：84 千円 (2023 年度、連結)	3
<環境> 資源強度 廃棄物	・廃棄物からリサイクル可能な資源を回収する選別機の開発・販売による廃棄物の有効活用の推進 〓 廃家電や廃モーターから銅線を高精度に回収できるリサイクル用選別機器を開発し、日本産業機械工業会主催の「第 48 回優秀環境装置表彰」において日本産業機械工業会会長賞を受賞	4
<環境> 資源強度 廃棄物	・リサイクル原材料 (スクラップ鉄等) を用いた製品製造による廃棄物量削減への貢献	5
<環境> 気候の安定性	・低炭素負荷製品・循環型製品の提供による社会全体の GHG 排出量削減への貢献 〓 3D 印刷用金属粉末の開発/販売を通じた 3D 印刷普及への貢献とそれに伴う CO2 排出量削減への貢献 〓 自動車電動化/自動運転技術向けの軟磁性粉末の開発/販売を通じた CO2 排出量削減への貢献	6
<環境> 気候の安定性	・顧客の脱炭素化 (生産面や製品の GHG 排出量削減) に資する製品の拡大 〓 サーキュラーエコノミーに向けた磁選機事業の展開 〓 廃熱を利用した熱電材料や水素精製向け材料等の開発	7

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況	項番
<社会> 健康・安全性	【インパクトの状況】 ・従業員の心身の健康への影響 【緩和・管理の状況】 ・「人を活かす経営」を経営理念に掲げ、多様な人材が活躍できるとともに働きやすく活力に満ちた職場環境づくりに努めている ・今後も健康確保のための環境整備を三菱製鋼健康保険組合と連携して行い、従業員の健康の保持増進に向けた活動を推進する 〓 健康診断の結果、要再検査/要治療となった従業員への受診勧奨・フォロー 〓 従業員の感染症予防	8

	<ul style="list-style-type: none"> └ストレスチェックを通じたメンタルヘルスへの適切な対応 └食生活の改善や運動機会の提供等 └保健指導の推進 └残業時間の削減 	
<p><社会> 健康・安全性</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の身体的な健康に影響する労働災害の発生 └休業災害度数率：0.87(2023年、連結) └災害件数：3件(2023年、連結) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全パトロールの実施 ・国内・海外の全拠点の従業員への安全ワッペンとヘルメット用のシール配布 ・安全担当者会議、安全協議会の開催 ・安全活動(5Sコンクール、フォークリフトコンクール、KYTコンクール、玉掛コンクール)の実施 	9
<p><社会> 健康・安全性</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品中の化学物質による安全への影響 └鉛及びその化合物の事業所外への移動量：0.3t(2023年度、主要3事業所) └クロムおよび3価クロム化合物の事業所外への移動量：11.1(2023年度、主要3事業所) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001、ISO/IATF16949に基づく品質マネジメントシステムの維持・管理 ・RoHS指令、REACH規則などに対する顧客の要求への対応 	10
<p><社会> 健康・安全性 社会的保護</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の心身の健康に影響する労働環境 └年次有給休暇取得率：75%(2023年度、単体) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク、フレックスタイム制、時差出勤の活用 ・「プラスONEキャンペーン」の実施 	11
<p><社会> 健康・安全性 <環境> 大気</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴う大気汚染物質の排出 └SOx排出量：0.3t(2023年度、主要3事業所) └NOx排出量：12.0t(2023年度、主要3事業所) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守の為の定期検査 	12
<p><社会> 水 <環境> 資源強度</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴う水資源の消費 └水資源投入量：1,031万m³(2023年度、主要3事業所) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺自治体との連携 	13
<p><社会> エネルギー</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴うエネルギーの消費 └エネルギー投入量：2,578TJ(2023年度、主要3事業所) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要拠点のうち千葉製作所、広田製作所において購入する全 	14

	<p>での電力を CO2 フリー電力へ切り替え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車用巻ばねの戻し炉工程におけるコンベア状に設置する搬送用のコンベアスラットプレートの軽量化 ・ガス切断装置で使用している LPG の水素への切り替え 	
<p><社会> ジェンダー平等</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動計画に基づく各種取り組みによる女性活躍の推進 <p>└ 従業員に占める女性比率：13.6%（2023 年度、単体）、24%（2023 年度、連結）</p> <p>└ 管理職に占める女性比率：3.9%（2023 年度、単体）、15%（2023 年度、連結）</p> <p>└ くるみん認定の取得（2023 年度、単体）</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性人材の採用・育成 ・育児休業期間の延長 ・短時間勤務対象者の拡大 ・一時保育利用補助 ・人権デューデリジェンス、ハラスメント研修、人権研修の実施 	15
<p><社会経済> 強固な制度・平和・安定</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社事業活動における人権侵害の発生 <p>└ 内部通報件数：13 件（2023 年度、連結）</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部通報制度の設置 ・内部通報への対応強化に向けて、コーポレートセンターの組織改正を検討中 ・コンプライアンス教育に内部通報制度の対応体制や通報者保護制度などの仕組みの説明を取り入れ ・「三菱製鋼グループ企業行動指針」の遵守 	16
<p><環境> 気候の安定性</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴う GHG の排出 <p>└ ライフサイクル全体の Scope1 排出量：79,157t-CO2（2023 年度、連結）</p> <p>└ ライフサイクル全体の Scope2 排出量：107,267t-CO2（2023 年度、連結）</p> <p>└ ライフサイクル全体の Scope3 排出量：1,744,807t-CO2（2023 年度、連結）</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ投資の積極的实施や生産・調達・輸送プロセス見直し ・再生可能エネルギー導入や低炭素燃料への転換 ・顧客企業等で当社製品使用時に発生する加工スクラップの還流率向上 	17
<p><環境> 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴う廃棄物の発生 <p>└ 最終埋立量：12,266t（2023 年度、主要 3 事業所）</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産プロセスの見直し 	18

三菱製鋼株式会社は、サステナビリティの推進にあたって「サステナビリティに関する基本方針」を定め、持続的な成長を担保するための施策を協議・立案することを目的として「サステナビリティ委員会」を設置、下部組織に「地球環境委員会」「カーボンニュートラル委員会」「ESG 推進室」を設置し、サステナビリティ課題への対応を行っております。また、リスク管理に関しては、国内・海外各拠点のガバナンスやコンプライアンスなどの管理面でのリスクを適切に管理するための組織として、CRO（最高リスク管理責任者）を責任者とした「リスク管理委員会」を設置し、リスク管理への対応を行っております。

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持し、ネガティブ・インパクトを管理・緩和するため、三菱製鋼株式会社による今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI 等）および、特定したインパクトの項番との主な対応関係については以下の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI 等）	関連項番
洋上風力発電機器の開発・販売の推進	【目標】 ・洋上風力発電機器の大型化に対応した関連製品や機器装置類の受注推進 ・2022 年度比洋上風力関連売上高：3.5 倍（2030 年度、連結） 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・洋上風力関連の受注高（連結）	1
自動車部品の開発・販売の推進	【目標】 ・ばね事業売上高：690 億円（2025 年度、連結） ・ばね事業営業利益：27 億円（2025 年度、連結） 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・ばね事業売上高（連結） ・ばね事業営業利益（連結）	2
人材の育成	【目標】 ・中計期間における人材への投資（教育、資格取得支援、福利厚生充実）：5 億円増加（2023～2025 年度、連結） ・エンゲージメントサーベイ：前年比スコアアップ 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・人材への投資額（単体） ・エンゲージメントサーベイスコア	3
リサイクル用選別機器の開発・販売の推進	【目標】 ・リサイクル用選別機器の受注拡大 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・リサイクル用選別機器の受注金額	4
特殊合金粉末の開発・販売の推進	【目標】 ・特殊合金粉末売上高：2022 年比 4 倍（2030 年度、連結） 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・特殊合金粉末売上高	6
従業員の健康の保持増進	【目標】 ・健康診断受診率：100%（三菱製鋼株式会社及び三菱製鋼室蘭特殊鋼株式会社）	8

	<ul style="list-style-type: none"> 再検受診率：100%（三菱製鋼株式会社及び三菱製鋼室蘭特殊鋼株式会社） 【モニタリング項目（KPI等）】 <ul style="list-style-type: none"> 健康診断受診率（三菱製鋼株式会社及び三菱製鋼室蘭特殊鋼株式会社） 	
労働環境の改善	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇取得率：75%（単体） 【モニタリング項目（KPI等）】 <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇取得率 	11
水資源の保全	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> 水資源投入量：2023年度比3%削減（2027年度、主要3事業所） 【モニタリング項目（KPI等）】 <ul style="list-style-type: none"> 水資源投入量 	13
女性活躍の推進	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> 従業員に占める女性比率：15%（2025年度、単体） 管理職に占める女性比率：10%（2025年度、単体） 【モニタリング項目（KPI等）】 <ul style="list-style-type: none"> 従業員に占める女性比率（単体） 管理職に占める女性比率（単体） 	15
GHG排出量の削減	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> GHG排出量原単位削減：1%以上/年（2050年、連結） 2013年度比GHG排出量（国内Scope1+2）削減：50%（2030年、連結） 2013年度比GHG排出量（国内Scope1+2）削減：100%（2050年、連結） 【モニタリング項目（KPI等）】 <ul style="list-style-type: none"> GHG排出量原単位（連結） GHG排出量（連結） 	17
廃棄物の削減	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の再資源化：ゼロエミッション達成（2050年度、連結） 【モニタリング項目（KPI等）】 <ul style="list-style-type: none"> 最終埋立量（主要3事業所） 	18

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年1回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまのESGの取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以上